

# 「令和4年度全国学力・学習状況調査」 東温市の調査結果について

## 1 調査の概要

### (1) 調査実施の目的等

「全国学力・学習状況調査」（以下「本調査」または「学力調査」という。）は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、また、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に実施しています。

各学校においては、本調査結果から児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることができると考えています。

### (2) 調査対象学年

- ・小学校第6学年（北吉井小学校・南吉井小学校・拝志小学校・上林小学校・川上小学校・東谷小学校・西谷小学校）
- ・中学校第3学年（重信中学校・川内中学校）

### (3) 調査の内容

#### ① 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能等
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

#### ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

### (4) 調査の方法

悉皆調査

### (5) 調査日

令和4年4月19日（火）

### (6) 令和4年4月19日に調査を実施した学校・児童生徒数（公立学校）

#### 【小学校調査】

#### 【中学校調査】

東温市：	7校（280人）	2校（271人）
愛媛県：	266校（10,600人）	131校（10,168人）
全 国：	18,805校（1,038,101人）	9,437校（994,935人）

## 2 調査結果の傾向と考察等

調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要です。したがって、この調査結果の公表が各学校の序列化につながったり、過度な競争につながったりすることのないように配慮したいと考えます。また、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどに留意して、調査結果を見ていくことが大切です。

(1) 東温市児童生徒の教科に関する調査結果の概要と分析

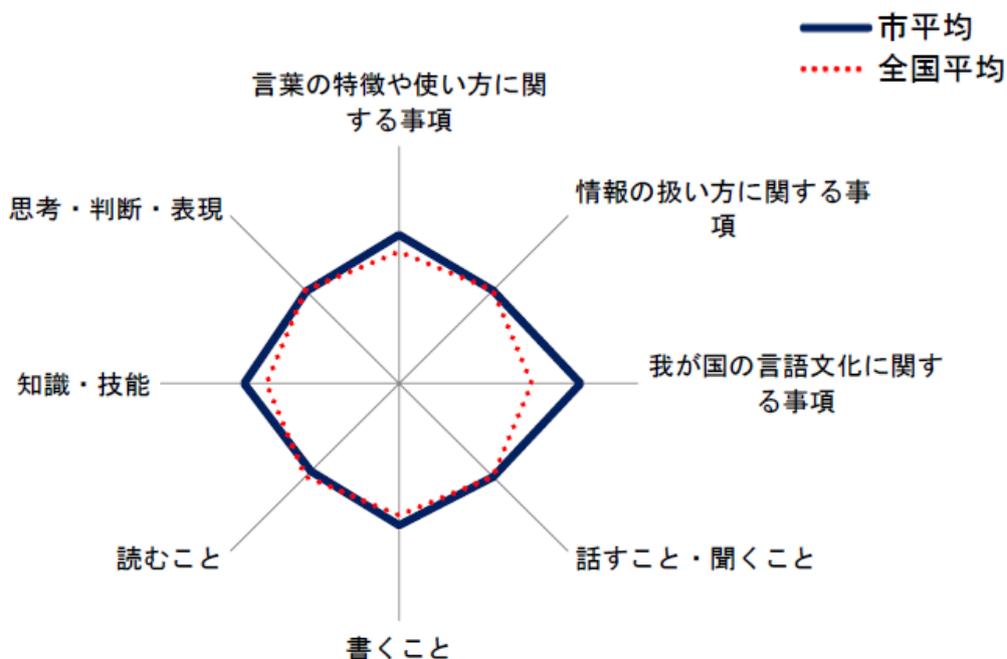
小学校

令和4年度 全国学力・学習状況調査  
(各教科観点別等の状況) 結果

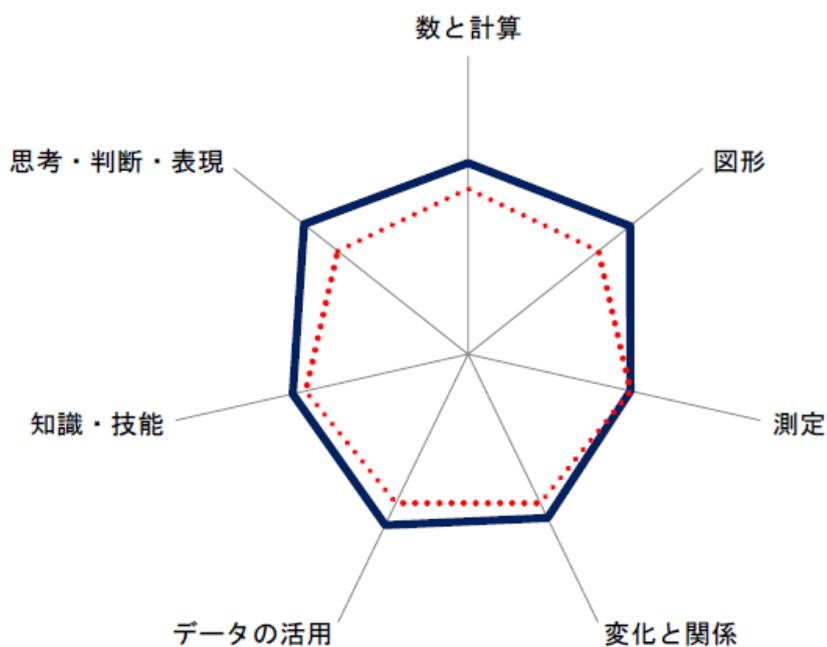
東温市

○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

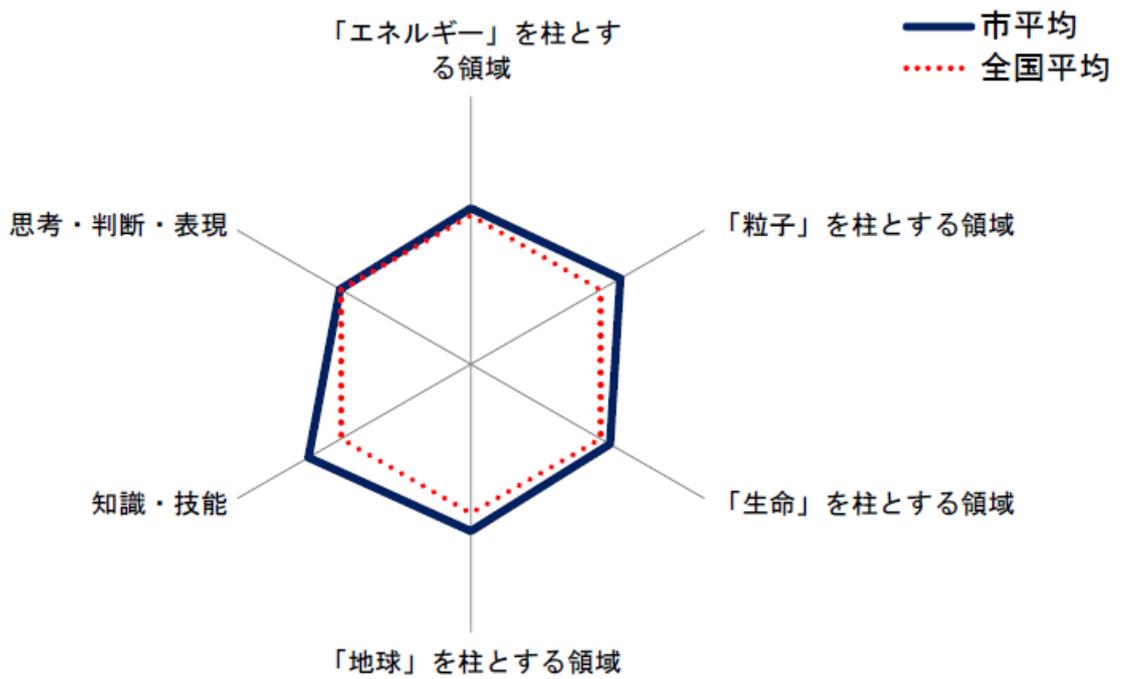
【国語】



【算数】



【理科】



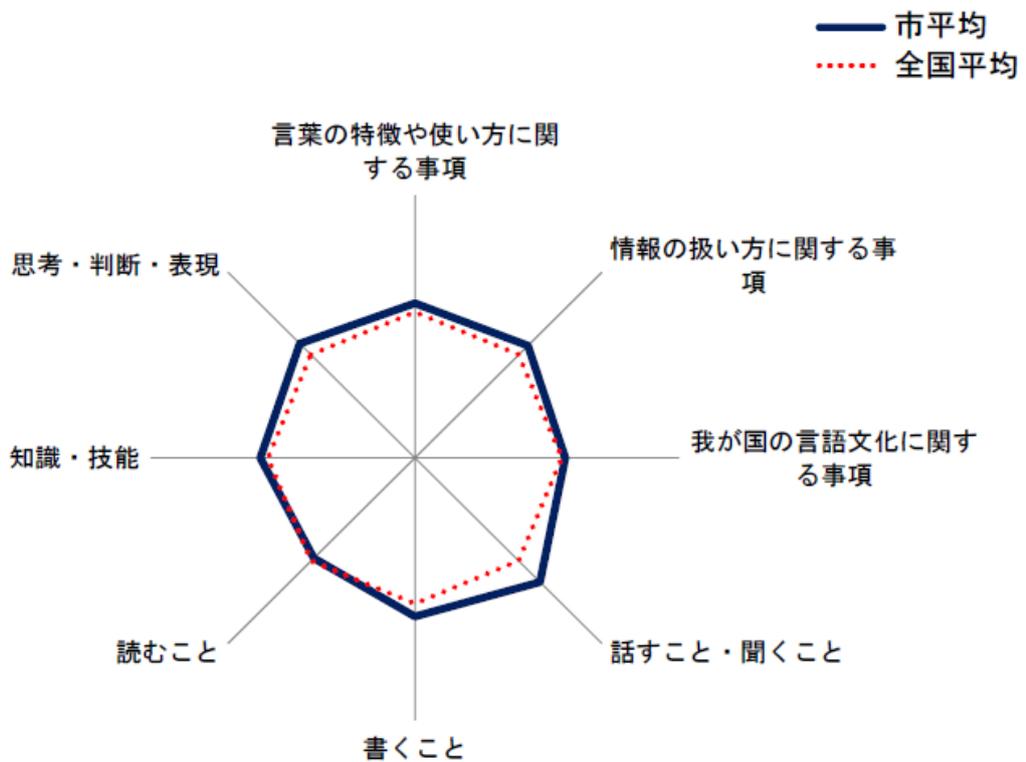
中学校

令和4年度 全国学力・学習状況調査  
(各教科観点別等の状況) 結果

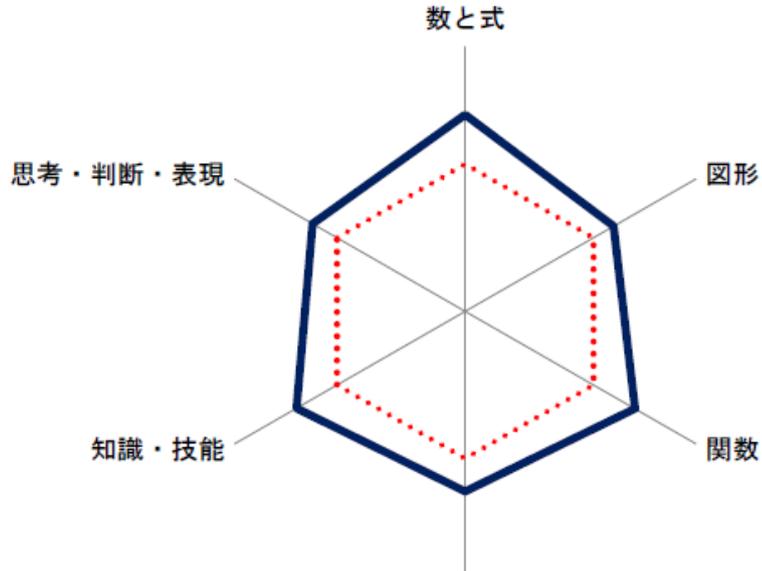
東温市

○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

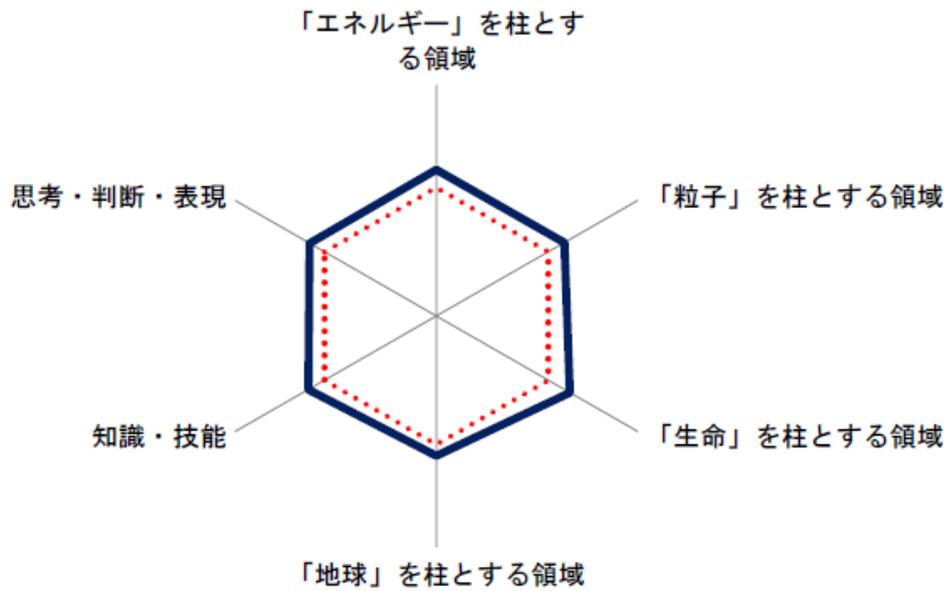
【国語】



【数学】



【理科】



— 市平均  
..... 全国平均

本調査で測定できた東温市内児童生徒の学力の概要は、以下のようになります。

- 小学校では、国語、算数、理科のほとんどの項目が全国平均を上回っている。特に国語の「我が国の言語文化に関する事項」、算数の「図形」の項目は極めて良好な結果である。
- 中学校では、国語、数学、理科のほとんどの項目が全国平均を上回っており、特に数学の「数と式」や「関数」、「データの活用」の項目は極めて良好な結果である。

#### 《問題別の結果》

(本市の調査結果も総合的に全国と同様の傾向が見られました。)

◇・・・相当数の児童生徒ができている点 ◆・・・課題のある点

#### 国語（小学校）

##### 【言葉の特徴や使い方に関する事項】

◇言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることは相当数の児童ができている。

◇学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことは相当数の児童ができている。

◆話し言葉と書き言葉との違いを理解することに課題がある。

##### 【我が国の言語文化に関する事項】

◇漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことは相当数の児童ができている。

##### 【話すこと・聞くこと】

◇必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることは相当数の児童ができている。

◆互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。

##### 【書くこと】

◇文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることは相当数の児童ができている。

◇文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることは相当数の児童ができている。

##### 【読むこと】

◇人物像や物語の全体像を具体的に想像することは相当数の児童ができている。

◇表現の効果を考えることは相当数の児童ができている。

◆登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。

◆登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることに課題がある。

#### 算数（小学校）

##### 【数と計算】

◇被乗数に空位のある整数の情報の計算をすることは相当数の児童ができている。

◇二つの数の最小公倍数を求めることは相当数の児童ができている。

◇示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述することは相当数の児童ができている。

◇示された場面において、目的にあった数の処理の仕方を考察することは相当数の児童ができている。

◇表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることは相当数の児童ができている。

◇加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述することは相当数の児童ができている。

##### 【図形】

◇正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての負の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することは相当数の児童ができている。

◇図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解することは相当数の児童ができています。

◇図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解することは相当数の児童ができています。

◇示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断することは相当数の児童ができています。

#### 【変化と関係】

◇伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することは相当数の児童ができています。

◆百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることに、課題がある。

◆示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。

#### 【データの活用】

◇分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉えて考察することは相当数の児童ができています。

◇目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることは相当数の児童ができています。

### 理科（小学校）

#### 【「エネルギー」を柱とする領域】

◇日光は直進することを理解することは相当数の児童ができています。

◇問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することは、相当数の児童ができています。

◇実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することは相当数の児童ができています。

◆自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことに課題がある。

#### 【「粒子」を柱とする領域】

◇メスシリンダーという器具を理解することは相当数の児童ができています。

◇水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解することは相当数の児童ができています。

◆メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けることに課題がある。

◆自分で発想した予想と、実験結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことに課題がある。

◆自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。

#### 【「生命」を柱とする領域】

◇自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述することは、相当数の児童ができています。

◇昆虫の体のつくりを理解することは相当数の児童ができています。

◆問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことに課題がある。

◆提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことに課題がある。

◆観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことに課題がある。

#### 【「地球」を柱とする領域】

◇観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことは、相当数の児童ができています。

◇予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことは相当数の児童ができています。

◇観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことは相当数の児童ができている。

## 国語（中学校）

### 【言葉の特徴や使い方に関する事項】

◇自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことは、相当数の生徒ができている。

◇助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことは、相当数の生徒ができている。

◇表現の技法について理解することは、相当数の生徒ができている。

◇事象や行為、心情を表す語句について理解することは、相当数の生徒ができている。

◆文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。

### 【我が国の言語文化に関する事項】

◇漢字の行書の読みやすい書き方について理解することは、相当数の生徒ができている。

◇漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することは、相当数の生徒ができている。

◆行書の特徴を理解することには課題がある。

### 【話すこと・聞くこと】

◇聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することは、相当数の生徒ができている。

◇論理の展開などに注意して聞くことは、相当数の生徒ができている。

◇自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことは、相当数の生徒ができている。

### 【書くこと】

◇自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことは、相当数の生徒ができている。

### 【読むこと】

◇場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することは相当数の生徒ができている。

◆場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題がある。

## 数学（中学校）

### 【数と式】

◇自然数を素数の積で表すことは、相当数の生徒ができている。

◇簡単な連立二元一次方程式を解くことは、相当数の生徒ができている。

◇問題場面における考察の対象を明確に捉えることは、相当数の生徒ができている。

◇目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することは、相当数の生徒ができている。

◇結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することは、相当数の生徒ができている。

### 【図形】

◇凡例の意味を理解することは、相当数の生徒ができている。

◇証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することは、相当数の生徒ができている。

◇筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することは、相当数の生徒ができている。

### 【関数】

◇一次関数の変化の割合の意味を理解することは、相当数の生徒ができている。

◇与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることは、相当数の生徒ができている。

◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することは、相当数の生徒ができている。

### 【データの活用】

- ◇多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解することは、相当数の生徒ができています。
- ◇データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することは、相当数の生徒ができています。
- ◇箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることは、相当数の生徒ができています。

## 理科（中学校）

### 【「エネルギー」を柱とする領域】

- ◇静電気に関する知識及び技能を活用することは、相当数の生徒ができています。
- ◇モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画することは、相当数の生徒ができています。
- ◇化学変化に関する知識及び技能と、「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使う仕組みの例を全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈することは、相当数の生徒ができています。
- ◇力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明することは、相当数の生徒ができています。
- ◇課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能は、相当数の生徒が身に付けている。
- ◇考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から、実験の計画を検討して改善することは、相当数の生徒ができています。

### 【「粒子」を柱とする領域】

- ◇化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことは、相当数の生徒ができています。
- ◇水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析し解釈することは、相当数の生徒ができています。
- ◆状態変化に関する知識及び技能を活用することには課題がある。
- ◆実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善することには課題がある。

### 【「生命」を柱とする領域】

- ◇節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することは、相当数の生徒ができています。
- ◇複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、足の骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈することは、相当数の生徒ができています。
- ◇アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことは、相当数の生徒ができています。
- ◇予想や仮説と異なる結果が出る場面について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の課程の見通しをもつことは、相当数の生徒ができています。
- ◇未知の節足動物を有の外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の視点や基準を基に分析して解釈することは、相当数の生徒ができています。

### 【「地球」を柱とする領域】

- ◇気圧に関する知識及び技能は、相当数の生徒が身に付いている。
- ◇継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈することは、相当数の生徒ができています。
- ◇飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することは、相当数の生徒ができています。
- ◇地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈することは、相当数の生徒ができてい

る。  
◇過去の大地の変動について、垂直移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえ、検討して改善することは、相当数の生徒ができています。

《問題別課題（市と全国の平均正答率との差）》

△…－ 3ポイント以上

▲…－ 5ポイント以上

[ ] 内の記号は、問題番号

#### 国語（小学校）

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

該当なし

【情報の扱い方に関する事項】

該当なし

【我が国の言語文化に関する事項】

該当なし

【話すこと・聞くこと】

△必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える〔1三〕

【書くこと】

該当なし

【読むこと】

▲登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。〔2一（1）〕

△登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。〔2一（2）〕

#### 算数（小学校）

【数と計算】

該当なし

【図形】

該当なし

【測定】

該当なし

【変化と関係】

△百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる。〔2（2）〕

【データの活用】

該当なし

#### 理科（小学校）

【「エネルギー」を柱とする領域】

該当なし

【「粒子」を柱とする領域】

△自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。〔2（4）〕

【「生命」を柱とする領域】

△観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。〔1（5）〕

【「地球」を柱とする領域】

該当なし

#### 国語（中学校）

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

該当なし

【情報の扱い方に関する事項】

該当なし

**【我が国の言語文化に関する事項】**

△行書の特徴を理解する。〔4一〕

**【話すこと・聞くこと】**

該当なし

**【書くこと】**

該当なし

**【読むこと】**

該当なし

**数学（中学校）**

**【数と式】**

該当なし

**【図形】**

該当なし

**【関数】**

該当なし

**【データの活用】**

該当なし

※ 中学校数学については、全ての問題で、全国平均・県平均を上回った。

**理科（中学校）**

**【「エネルギー」を柱とする領域】**

該当なし

**【「粒子」を柱とする領域】**

該当なし

**【「生命」を柱とする領域】**

該当なし

**【「地球」を柱とする領域】**

該当なし

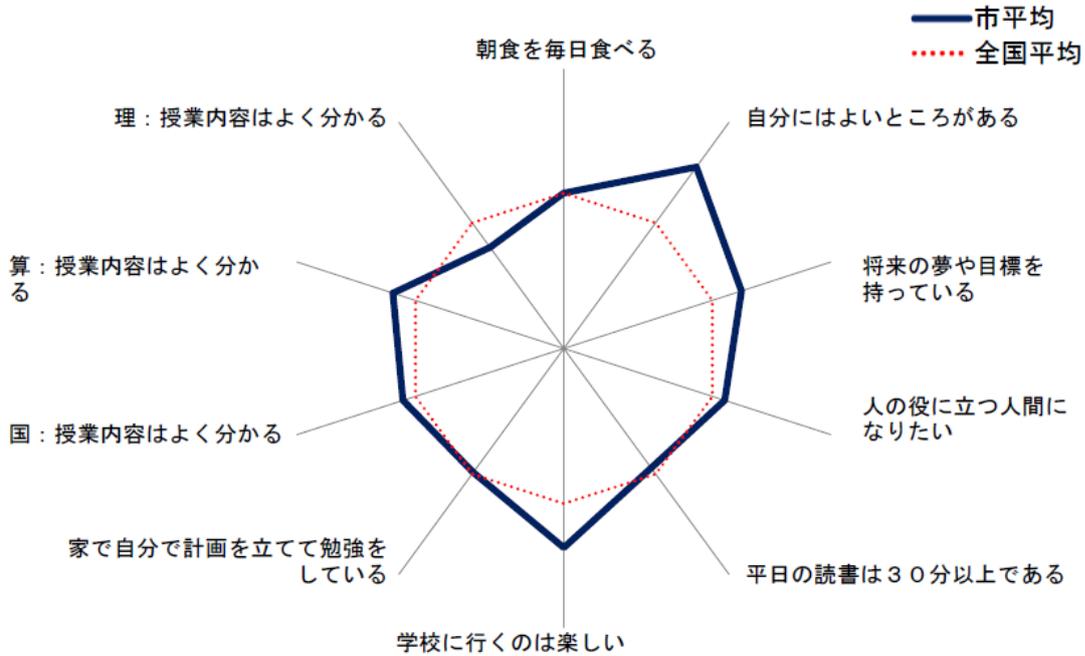
(2) 東温市児童生徒の生活習慣等に関する質問紙結果の概要と分析  
 全国の平均回答率との差は次のようになっています。

**小学校**

令和4年度 全国学力・学習状況調査  
 (学習や生活の状況) 結果

東温市

○ 児童質問紙調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)

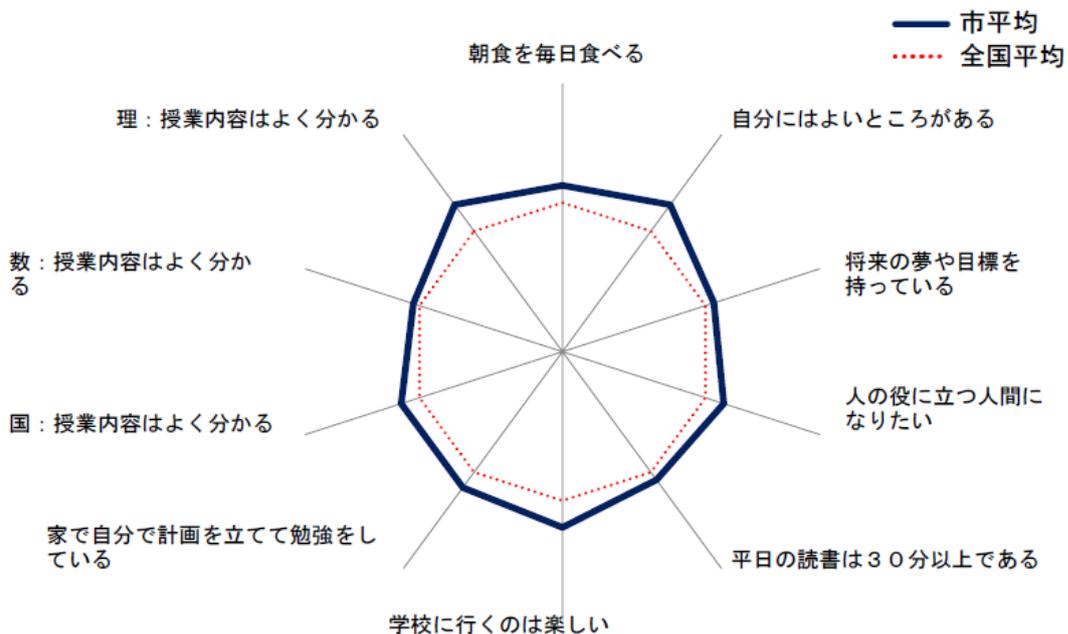


**中学校**

令和4年度 全国学力・学習状況調査  
 (学習や生活の状況) 結果

東温市

○ 生徒質問紙調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)



本調査による東温市内児童生徒の生活習慣等の概要は、以下のようになります。

- 「学校に行くのが楽しい」と答えている割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っており、各小・中学校で児童生徒の居場所づくりができていていることが伺える。
- 朝食を毎日食べている割合は、小学校では全国平均と同等、中学校では上回っている。
- 小・中学校とも、「自分にはよいところがある」と答えた児童生徒の割合が全国平均を大きく上回っており、自己肯定感を高める教育活動が推進されていることの成果が伺える。
- 「将来の夢や目標を持っている」割合は小・中学校ともに全国平均を上回っており、発達段階に応じたキャリア教育の成果が伺える。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と思う割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っており、良好な状況である。
- 平日の読書時間は、小学校では全国平均を下回り、中学校ではやや上回っている状態であり、今後の読書活動の推進が必要である。
- 家で自分で計画を立てて勉強している割合は、小学校では全国平均と同等、中学校では大きく上回っており、小学校での自主的・自発的な学習指導が望まれる。
- 国語の授業については、小・中学校ともに上回っており、分かる授業が実践されていることが伺われる。
- 算数・数学の授業については、小・中学校ともに上回っており、分かる授業が実践されていることが伺われる。
- 理科の授業では、小学校では大きく下回り、中学校では大きく上回っている。小学校での「分かる」と実感できる授業の実践が急務である。

その他、市内の小・中学生が全国平均と比較して、肯定的な回答及び否定的な回答が多かった項目は以下の通りです。

※ (小) は小学校、(中) は中学校の回答

肯定的な回答が多かった項目
○ 朝食を毎日食べている。(中)
○ 毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きる。(小・中)
○ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。(小・中)
○ 普段、1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをするか。(小・中)
○ 普段、どれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをするか。(小・中)
○ 自分には、よいところがある。(小・中)
○ 先生が、よいところを認めてくれている。(小・中)
○ 将来の夢を持っている。(小・中)
○ 自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている。(小・中)
○ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。(小・中)
○ 人が困っているときは、進んで助ける。(小・中)
○ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。(小・中)
○ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。(小・中)
○ 人の役に立つ人間になりたいと思う。(小・中)
○ 学校に行くのは楽しい。(小・中)
○ 自分と違う意見について考えるのは楽しい。(小・中)
○ 友だちと協力するのは楽しい。(小・中)
○ 家で自分で計画を立てて勉強をしている。(中)

- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日どれくらいの時間勉強をするか。(中)
- 読書が好き。(中)
- 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある。(小・中)
- 今住んでいる地域の行事に参加している。(小・中)
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。(小・中)
- 自分の考えを発表する授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した。(小・中)
- 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った。  
(小)
- 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。(小・中)
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。(小・中)
- 学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。(小・中)
- 総合的な学習の時間では、自分の課題を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(小・中)
- 学校生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。(小・中)
- 学級活動に学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。(小・中)
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。(小・中)
- 国語の勉強は好きだ。(中)
- 国語の授業の内容はよく分かる。(小・中)
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う。(小・中)
- 算数(数学)の勉強は好きだ。(小・中)
- 算数(数学)の勉強は大切だと思う。(小・中)
- 算数(数学)の授業の内容はよく分かる。(小・中)
- 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う。  
(小・中)
- 算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。(小・中)
- 算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。  
(小・中)
- 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。(小・中)
- 理科の勉強は好きだ。(中)
- 理科の勉強は大切だと思う。(中)
- 理科の授業の内容はよく分かる。(中)
- 理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。(中)
- 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。(中)
- 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。(中)
- 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。(中)
- 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。(中)
- 解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した。(小・中)

否定的な回答が多かった項目
● 学校の授業時間以外に、平日、1日当たりどれくらいの時間勉強をするか。(小)
● 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をするか(小)
● 学校授業時間以外に、平日、1日当たりどれくらいの時間読書をするか。(小・中)
● 家にはどれくらいの本があるか。(小・中)
● 新聞を読んでいるか。(小・中)
● PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか。(小・中)
● 学校で、授業中に調べる場面で、PC、タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。(小・中)
● 学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。(小・中)
● 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。(小・中)
● 普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っているか。(小・中)
● 理科の勉強は好きだ。(小)
● 理科の勉強は大切だと思う。(小)
● 理科の授業の内容はよく分かる。(小)
● 理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。(小)
● 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。(小・中)
● 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。(小)

### (3) 調査結果の考察

#### ○ 授業改善について

本調査で見られた課題は、調査対象学年のみならず、全学年を通じた系統的・継続的な指導によって改善していくことが大切です。

各学校では、今までも本調査結果を受けて算数科・数学科、英語科の授業を中心にTT指導等の個に応じた指導を行ってきました。また、話し合い活動や小グループ学習等を取り入れた学び合いの場が設定され、児童生徒の学習意欲の向上やコミュニケーション能力の育成、思考力、判断力の育成や学習内容の理解に有効に働いていると考えられます。

今後は、今までの取組を継続するとともに、以下の点において改善を図ることが大切だと考えます。

小学校国語においては、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題があり、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気付くことができるように、振り返りの場面などで自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設定する必要があります。また、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題があり、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるよう、「～という意見もあったが」「～という考えもあるけれど」などの表現を話し合いの中で用いることができるように指導することが大切です。さらに、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題があり、「内容や記述などに見られる具体的なよさ」、「書こうとしたことの明確さ」「文章全体の構成や展開の明確さ」などを見付けることができるように、系統的に指導することが大切です。また、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題があり、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように書かれているか」という表現面にも着目して読むことができるよう指導することが大切です。

小学校算数では、示された日常の事象における場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題があり、日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きく見たり小さく見たりして、概算できるように指導することが重要です。その際、概算する方法が適切であるかどうかを判断できるように指導することが大切です。また、正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題があり、辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、作図の仕方を筋道立てて説明したりすることができるように指導することが大切です。さらに、割合を用いて問題を解決する場面において、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題があり、日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導することが大切です。また、分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することや、目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題があり、日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できるように指導することが大切です。

小学校理科においては、缶の色と水の温度の変化との関係についての実験で得た結果を分析して、解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を記述することに課題があり、観察、実験の結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定することが大切です。また、砂糖水を凍らせた物が沈んだという情報を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、適切な問題を見いだし記述することに課題があり、自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきを基に差異点や共通点を捉え、問題を見い出す場面を設定することが大切です。さらに、昆虫の育ち方と食べ物についての表を整理する過程で気付いたことを基に、適切な問題を見い出すことに課題があり、観察、実験の結果を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見い出すことができるようにするために、それぞれの気づきを明確にし、主に差異点や共通点を基に問題を見い出す場面を設定することが大切です。また、水が水蒸気になって空気中に含まれていることを日常生活に関連付けて理解することに課題があり、知識をより深く理解できるようにするために、問題解決を通して修得した知識を使って、日常生活とのかかわりの中で捉え直す場面を設定することが大切です。

中学校国語においては、行書の特徴を理解することに課題があり、「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」などの行書の特徴を、伝統的な文字文化とも関連付けさせながら理解し、それぞれがどのような書き方なのかを具体的に捉えて、実際に書くことができるように指導することが大切です。また、意図を明確にして、話し方の工夫を自分で具体的に考えることに課題があり、話す際の工夫が様々あることを理解し、自分の考えを分かりやすく伝えるにはどのような工夫が効果的なのかを、聞き手の立場に立って考えることができるように指導することが大切です。さらに、引用の仕方や出典の示し方について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報から引用して書くことに課題があり、本や資料から文章や図表などを引用する必要がある言語活動の中で、引用の際には引用箇所をかぎかっこ（「 」）でくくことや、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認するとともに、引用する目的や効果について考えるように指導することが大切です。それらを踏まえて、意見文などを書く際に、自分の考えを支える根拠として資料を適切に引用することなどができるように指導することが大切です。また、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情などについて、描写を基に捉えることに課題があり、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化、登場人物の設定の仕方、

物語の展開の仕方などを捉えて、内容を理解することができるように、系統的に指導することが大切です。

中学校数学においては、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題があり、結論が成り立つための前提を考え、見出した事柄を数学的に表現できるようにするために、すでに成り立つことが示された事柄を基に、前提を変えても成り立つ場面を考え、話し合う活動を取り入れることが考えられます。その際、成り立つ事柄を予想するために、具体例をあげて調べる活動を充実させることが大切です。また、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題があり、結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、事柄が成り立つ理由について数学的に説明できるように指導することが大切です。さらに、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があり、様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」を明確にして問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実することが大切です。また、箱ひげ図からデータの分布の特徴を読み取ることに課題があり、複数の集団のデータの分布を比較する場面を設定し、データを整理して箱ひげ図に表し、データの分布の傾向を比較して読み取る活動を充実することが大切です。

中学校理科においては、力の働きに関する実験において、考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善することに課題があり、考察の妥当性を高めるために、実験結果の処理について振り返り、例えば測定する間隔や範囲などの改善の視点を明確にした上で、実験の計画を検討して改善する学習活動を充実することが大切です。また、物質の状態変化に関する知識及び技能を活用することに課題があり、「粒子」に関する知識及び技能と、身近な現象とを関連付けて探究する学習場면을繰り返し設定することが大切です。さらに、動物の様子を観察において、観察、実験の操作や条件の制御など、探究の方法について検討し、探究の過程について見通しをもつことに課題があり、課題を解決するまでの探究の過程を見通すことが大切であり、実験の計画を立案する際に予想や仮説と異なる結果が出る場面を想定し、課題を解決するために適切な探究の方法について、話し合い活動を通して確認する学習場面を設定することが必要です。また、地層の広がり方について、主として時間的・空間的な視点で捉え、地層の傾きの方向を分析して解釈することに課題があり、地層モデルなどを活用して地層を立体的に捉え、試行錯誤しながら広がりや傾きを考えるような学習活動を充実させることが大切です。

※参照＜令和4年度全国学力・学習状況調査の結果：文部科学省国立教育政策研究所＞

東温市教育委員会では、平成25年度から全小学校4年生、中学校2年生で標準検査を実施しています。この標準検査は、学力を全国標準に照らして客観的に把握できるとともに、教科書の単元のまとまりでの集計結果や、一問ごとの回答を分析することで具体的な指導対策に活用できるものとなっています。コンピュータで分析された個人票をもとに、学習相談をより一層充実させていきたいと考えます。

#### ○ 家庭学習について

家庭学習の習慣化については、以前から市全体の課題と捉えてきました。小・中学校義務教育9年間のスパンを見通して、家庭での理解と協力を得ながら発達段階に応じた学びの力

を子供たちに身につけさせる一つの手立てとして、市内小・中学校の学力向上推進主任が中心となって「東温市家庭学習の手引き」を作成しています。この「東温市家庭学習の手引き」は、毎年4月に市内全小・中学生へ配付しております。各学校においては、市内共通の「東温市家庭学習の手引き」を基に自校の「学習の手引き」を見直すなどしながら、児童生徒の家庭学習の定着に取り組んでいます。

今回の調査結果では、東温市内の児童生徒については、平日、家庭学習をしている時間は全国平均に比べて特に小学校で短くなっており、家で自分で計画を立てて勉強をしている小学校児童は全国平均とほぼ同等、中学校生徒において多い状態です。

家庭学習の習慣化への取組を継続していく中で、今後は、宿題の出し方、宿題の内容の検討、自ら学び続ける力の育成につながる自主的、主体的な家庭学習の推進などに重点を置いて、量（時間）、質（内容）ともに重視した家庭学習にしていきたいと考えています。

#### ○ 読書活動について

読書活動については、以前から市全体の課題と捉えてきました。現在も学校における読書環境の整備に努め、「東温市家庭学習の手引き」でも、小学校中学年からは、国語の授業で学習した内容に関連する作品の読書を勧めています。教育委員会では毎年、学校図書購入費を確保し新書等の購入にあたっています。また、市立図書館との連携を図り、市立図書館の運営に関する選書会委員として東温市学校図書主任会から委員を任命し、児童・生徒にとって親しみやすい市立図書館の運営や利用促進に努めています。

今回の調査結果では、平日の読書が30分以上の割合は中学校では全国平均をやや上回っているものの、小学校では全国平均を下回っています。また、平日の読書が30分以上の割合は小学校で約35%、中学校で約29%となっており、小学校（令和元年度18%）、中学校（令和元年度27%）より小・中学校ともに上昇したとはいえ、依然として本市の課題であると捉えています。

児童・生徒の考える力を高めていくためには、書籍のみならず新聞を読む力を育てることも大切です。新聞を読んでいる割合は、小学校は約25%、中学校は約23%で全国平均と比べて小・中学校ともに低くなっており、この割合の低さについても本市の課題の一つと捉えています。今後とも新聞に積極的に触れさせることで、広い視野に立ったものの見方や考え方ができる力や本当に正しい情報を取捨選択する力を育成し、子供たちの地域や社会に貢献しようとする意欲や態度を育みたいと考えます。

#### ○ ICTの活用について

今回の調査結果において、「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか。」「学校で、授業中に調べる場面で、PC、タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。」「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。」「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか。」「普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っているか。」の各項目で小・中学校ともに全国平均を下回りました。令和3年度に児童生徒に1人1台端末が配備されて以降、東温市でも1人1台端末を使った授業を推進しています。令和4年度7月に行った学校訪問では、多くの授業で1人1台端末を「使用」するだけでなく「活用」する場面が見られました。しかし、今回の調査で、1人1台端末を割合が全国平均、県平均と比べて低い状況があることが分かったことから、今後更に学校に対して、1人1台端末を活用した授業を実践するよう指導していきたいと考えます。

### ○ 心の教育について

今回の調査結果でも、「自分にはよいところがある」と答えた児童生徒の割合が全国平均と比べて極めて高く、自尊心や自己有用感が育っていると考えられます。この傾向は小学校よりも中学校の方がより顕著であり、小学校から中学校にかけての「ほめる教育の推進」、「学校における居場所づくり」が進んでいる証しと考えられます。さらに、「人が困っているときは進んで助ける」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「いじめはどんな理由があってもいけない」などの割合も高くなっており、規範意識や思いやりの心も育っていると考えます。

「学校に行くのは楽しい」と答えている割合が小・中学校ともに高くなっており、この良好な状況がさらに好循環になるように、一人一人を大切にしたい取組を継続していく必要があると考えます。

## 3 おわりに

学校や東温市教育委員会では今後とも継続的に本調査を実施していきます。その際、「教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」という調査本来の目的を忘れ、結果だけに関心が向けられないようにするとともに、調査結果を教育相談や個別指導に活用し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげていきたいと考えます。

学校教育の最大の任務は「子供たちに確かな学力を身に付けさせること」であり、学力を高めるためには、学習を行おうとする基盤づくりが最も大切な要素です。学校や東温市教育委員会は、保護者を含めた地域の教育力を得ながら、子どもたち一人一人の可能性を広げる教育の推進に努めていきます。